

[認知症対応型共同生活介護用]

調査報告概要表

作成日 平成21年 01月 23日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4 6 7 0 1 0 4 9 6 9
法人名	東開メディカル 有限会社
事業所名	グループホーム 灯夢想家
所在地	鹿児島市東開町3-21 (電 話) 099-260-3030
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5前田ビル1F
訪問調査日	平成21年1月23日

【情報提供票より】(20年 12月 10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 1月 27日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	17 人 常勤 8 人, 非常勤 9 人, 常勤換算 14 人

(2)建物概要

建物構造	木造軸 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000~31,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	450 円	おやつ 50/日 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(12月 10日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	6 名	要介護2	8 名
要介護3	1 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83 歳	最低 74 歳	最高 94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	東開内科クリニック・みやはら歯科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

木肌のぬくもりを感じさせる純木造の建物は、木の香りに包まれ居心地よく明るく家庭的で、生活感や季節感が感じられる空間となっている。利用者が、和室やダイニングなど思い思いの場所でくつろげる配慮がなされ、落ち着いた雰囲気インテリアが利用者や職員のゆとりに結びついている。鹿児島市内でも交通量の多い工業地にあるもののホーム内は非常に静かである。町内会に入会し、町内会の催事や近隣の高校の学園祭に参加するなど地域との結びつきにも努力している。隣接するクリニックとの連携により24時間の健康管理がなされ、利用者、家族ともに安心感が得られるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者をはじめ職員は、前回評価の改善計画を作成し共有することで、自己評価及び外部評価の意義を理解し、全員で取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	今回の自己評価はすべての項目について全職員が学びながら検討し、前回と照らし合わせながら作成している。また全員で確認し共有している。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	長寿会の会長、ボランティアの代表、家族等が出席しており、それぞれの立場からの意見をもらい、運営に役立てている。また、話し合われた意見を集約し、サービスの質の向上に取り組み、ホームのありのままを感じてもらう有意義な会となっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員異動等を面会時や電話で報告し、定期的に発行するホームだよりでホームのできごとを詳細に報告している。日頃から職員に対して苦情を訴えやすい雰囲気作りに努めており、家族との会話の中から要望をくみ取るようにしている。出された苦情・要望は、内容の詳細をノートに記載して職員で改善にむけて話し合いを行い結果をホームだよりに掲載し運営に反映させている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域自治会に入会し催事に積極的に参加している。近隣の学校のバザーに出店したり、隣接する病院に通院する地域の方に日常的にホームに立ち寄ってもらいながら、魚や野菜などをいただいたりする関係もできている。

調 査 報 告 書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が安心して生活できる家づくりを目指して全職員で話し合い、地域と密着したホーム作りを理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示するとともに、朝の申し送り時等に日々のケアの目標・道標として話し合い、ケアの振り返りを行いながら全職員で共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域自治会に入会し催事に積極的に参加している。近隣の学校のバザーに出店したり、隣接する病院に通院する地域の方に、日常的にホームに立ち寄ってもらいながら、魚や野菜などをいただいたりする関係もできている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者をはじめ職員は、前回評価の改善計画を作成し共有することで自己評価及び外部評価の意義を理解し、全員で取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	長寿会の会長、ボランティアの代表、家族等が出席しており、それぞれの立場からの意見をもらい、運営に役立てている。また、話し合われた意見を集約し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に2回は市の担当部署へ訪問し取り組みの報告や各種手続き等の相談を通して、問題解決に向けて協働して取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員異動等を面会時や電話で報告し、定期的に発行するホームによりでホームのできごとを詳細に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から職員に対して苦情を訴えやすい雰囲気作りに努めており、家族との会話の中から要望をくみ取るようにしている。出された苦情・要望は、内容の詳細をノートに記載して職員で改善にむけて話し合いを行い結果をホームによりに掲載し運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理運営者は、馴染みの関係の重要性を理解しており、職員の交代がある場合は引継ぎを十分に行い、利用者へのダメージを防いでいる。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内の勉強会を月に1回行い、経験年数に応じた職員向けの研修や、ユニット単位での交代研修を計画的に行っている。職員会議や申し送りの中で、研修報告を行うとともに職員の質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や地区のグループホーム協議会に加入し、職員が交代で交流会へ参加している。その機会を利用して、他のホームの職員の研修受け入れや、見学の受け入れを行うなど交流する機会が確保できている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望時にはなるべく面談を行い、利用者の生活状態、思いや不安を十分に把握するとともに、地域のケアマネージャーと連携し、馴染みの関係づくりの配慮を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	さつまいもやブロッコリー等の季節の野菜を職員と利用者が一緒に菜園で栽培したり、料理の下ごしらえをする中で共に過ごす関係を築きながら一緒に活動したり、楽しんだりする機会を多く設けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの話を傾聴し、日々のかかわりの中で思いや意向の把握に努め、困難な場合は、家族へのお便りの中や家族会の中で家族と話し合い、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に職員や家族と検討し、利用者主体の介護計画を作成している。職員の気づき、利用者・家族の意見の確認は介護計画作成時だけでなく日常的に行うようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族の意見・要望を取り入れ、状態の変化が生じた場合、そのつど見直しを行っている。毎月の会議で介護計画の見直しの必要性を全職員で検討し、評価は3ヶ月に一度行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接する医療機関との連携により24時間の健康管理を行うとともに、利用者の通院介助や外泊支援、個別買い物支援を行っており、家族宿泊時は食事を提供している。また介護福祉士の資格を持つ職員を講師として派遣し事業所として地域へ貢献を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医選択においては利用者及び家族の希望を大事にしており、定期的な受診、通院介助の対応がなされている。利用者及び家族の希望を大切に、その上で協力医療機関の支援をもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対する対応指針を定め、家族に説明し同意をもらっている。また職員は勉強会を行い方針を共有している。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々のケアの中で利用者への言葉遣いや職員間の会話に配慮するように心がけられ、さらに申し送り時や職場内研修等でそのつど確認し、勉強会を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしては基本となる一日の流れはあるものの利用者一人ひとりのペースや希望を取り入れ、その日の体調や気分に合わせて支援ができるよう努力している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを利用者と相談し、買い物や調理・片付けなど能力に応じてしてもらい、職員も同じ食事を同じテーブルでとることで和やかな雰囲気の中食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調と希望に応じて入浴支援を行っている。入浴日はとくになく、個別に対応している。一人ひとりの時間をゆつくりととり入浴の楽しみを感じてもらえるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、季節を感じるための菜園作業・家事や趣味(塗り絵・計算ドリル・パズル)を楽しんだり、お手伝いをすることでそれぞれの役割を見出し日常生活を楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節を感じるため月に3、4回のドライブ、日常的に本人の気分や天候に応じて食事の買い物や散歩など外出の機会を設けている。また地域行事等への参加を支援している。		
jiss					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関をはじめ各居室に鍵をかけない自由な暮らしの支援を行っている。職員は、利用者の状態を把握し、利用者一人ひとりのサインを見逃さず、さりげなく一緒に散歩に出るなどの支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	夜間を想定した避難訓練を含め、定期的な訓練を行っており、消防関係者や町内会や近隣のご家族の協力を得ている。災害時に必要とされる備蓄の管理もなされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日1500キロカロリーの食事提供と水分1200ccを目安にしており、管理栄養士からアドバイスをもらっている。嚥下に支障のある利用者には、ソフト食やとろみをつける等の工夫を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木をふんだんに使った建物は明るく家庭的で、生活感や季節感が感じられる空間となっている。利用者には、和室やダイニングなど思い思いの場所でくつろげる配慮がなされ、落ち着いた雰囲気の内装が配置され過ごしやすい空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや思い出の写真をはじめ、テレビや位牌、趣味の品など利用者の馴染みの道具が多く見られる。		